
秋田県における急性血液浄化療法実施状況

平塚広樹、大山幸男、小場幸恵、丸山 広、守澤隆仁、佐藤賢行

中永士師明*

公益社団法人秋田県臨床工学技士会、

秋田大学大学院医学系研究科 病態制御医学系 救急・集中治療医学講座*

The Acute Blood Purification Enforcement Situation in Akita

Hiroki Hiratsuka, Yukio Oyama, Yukie Oba, Hiroshi Maruyama,

Tadahito Morisawa, Masuyuki Satou, and Hajime Nakae*

Nonprofit Foundation Akita Clinical Engineer Society,

Akita University Graduate School Medicine System Graduate Course

Condition of a Patient Control Medical Society First Aid,

Intensive Care Medicine Lecture*

<諸言>

公益社団法人秋田県臨床工学技士会では、2008年より毎年、血液浄化領域における事業の1つとして秋田県内における急性血液浄化療法の実施状況調査を行ってきた。

以前から、その調査結果を秋田県アフェレシス研究会にて公表してきたが、今回6年間の調査結果をまとめたので報告する。

<対象>

1. 調査対象

秋田県内の臨床工学技士が所属している急性血液浄化療法を施行している病院20施設22部署
(2009年までは22施設24部署)

2. 施設内訳

県北地区5施設、中央地区9施設11部署、県南地区6施設

<方法>

1. 調査期間

2008年～2013年の6年間（例年2月～3月に実施）

2. 調査方法

郵送による書面アンケート

3. アンケート回収状況

2008年91.7%（21施設22部署）、2009年91.7%（21施設22部署）、

2010年86.4%（18施設19部署）、2011年95.5%（19施設21部署）、
2012年95.5%（19施設21部署）、2013年95.0%（20施設22部署）

4. アンケート内容

- ① DPC（包括支払制度）対象病院か？
- ② プライミング、治療開始終了の機械操作などの実務担当者は誰か？
(CE、Ns、Dr、その他)
- ③ 急性血液浄化療法を主に施行する部署はどこか？
(救急・ICU、透析室・血液浄化部、一般病棟、その他)
- ④ 担当スタッフは急性血液浄化療法施行中にどのように係わっているか？
(ベッドサイドで常時対応、経時的に対応、アラーム発生時のみ、その他)
- ⑤ CRRT : Continuous Renal Replacement Therapy（持続的腎代替療法）について
設定（血流量、透析液量、補液量）、抗凝固剤（種類、使用量）、
ACT測定（定期的、不定期、測定しない、その他）、
血液浄化器（PS、PMMA、症例毎、その他）、
回路交換（毎日、2日／1回、不定期）
- ⑥ 各症例について
年齢、性別、疾患、治療法、施行回数、担当科、入院科、施行部署
CRRT+エンドトキシン吸着を施行した場合は症例数を2とする。

上記のアンケート内容から集計結果の一部を報告する。

＜結果＞

1. 患者数

毎年300人以上の患者に急性血液浄化療法が施行されていた。

男女比は男性の方が多く、半数以上を占める年が多く見られた。

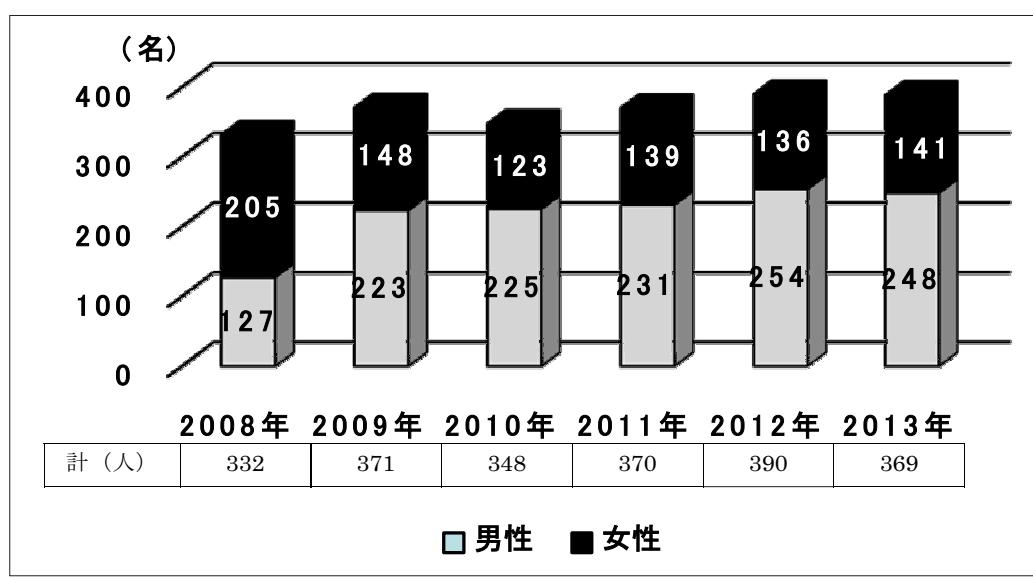


図1 患者数

2. 症例数

2008年以降、毎年400症例以上に急性血液浄化療法が施行されていた。

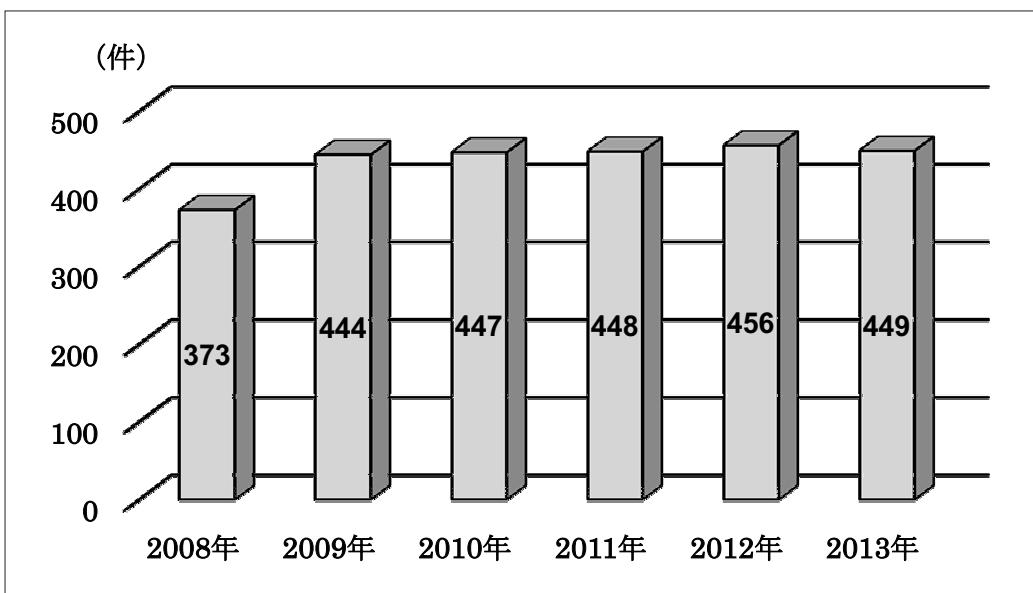


図2 症例数

3. 総施行件数

秋田県内では毎年2,000件前後の急性血液浄化療法が行われており、総施行件数は近年では増加傾向にある。

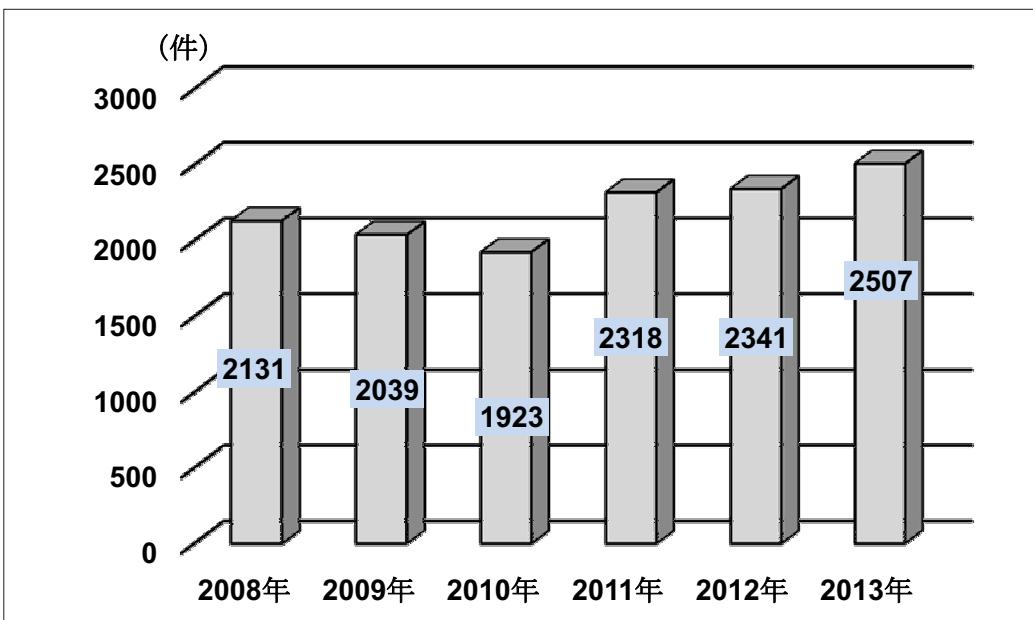


図3 総施行件数

4. 対象疾患別症例割合

急性血液浄化療法を施行した症例は、急性・慢性腎不全、敗血症などが多かった。その他の症例では、悪性腫瘍や肝硬変などが多い傾向にあった。

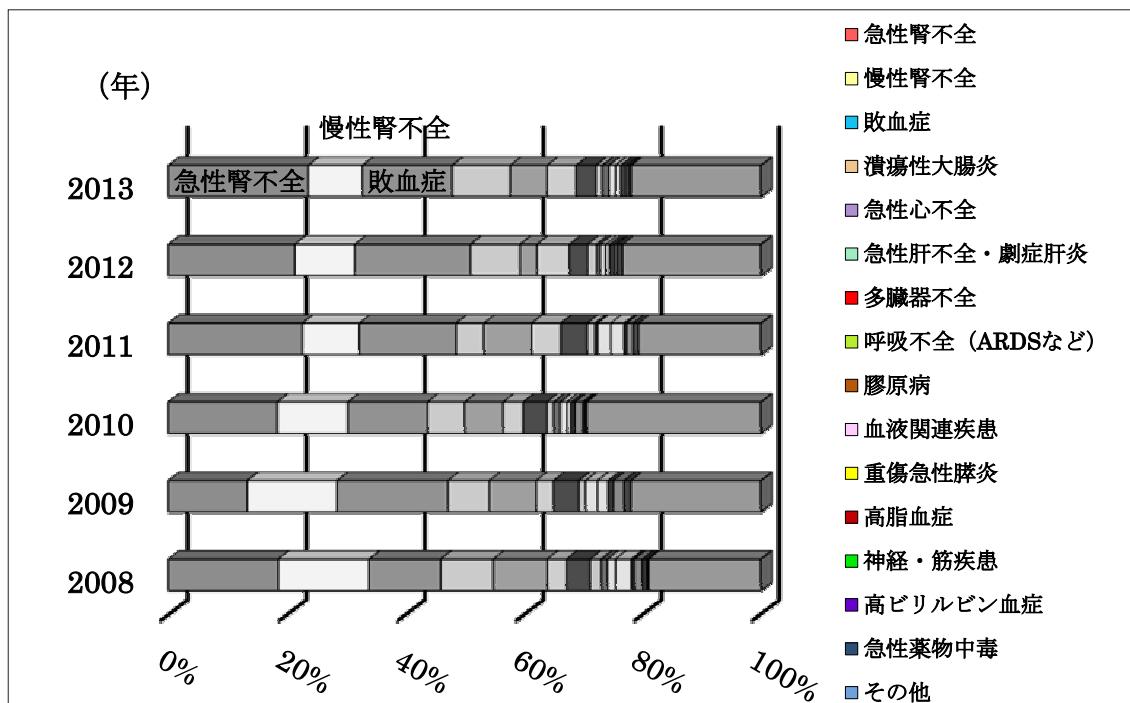


図4 対象疾患別症例割合

5. 血液浄化療法別施行割合

CRRTが半数以上を占め、最も施行割合が高かった。

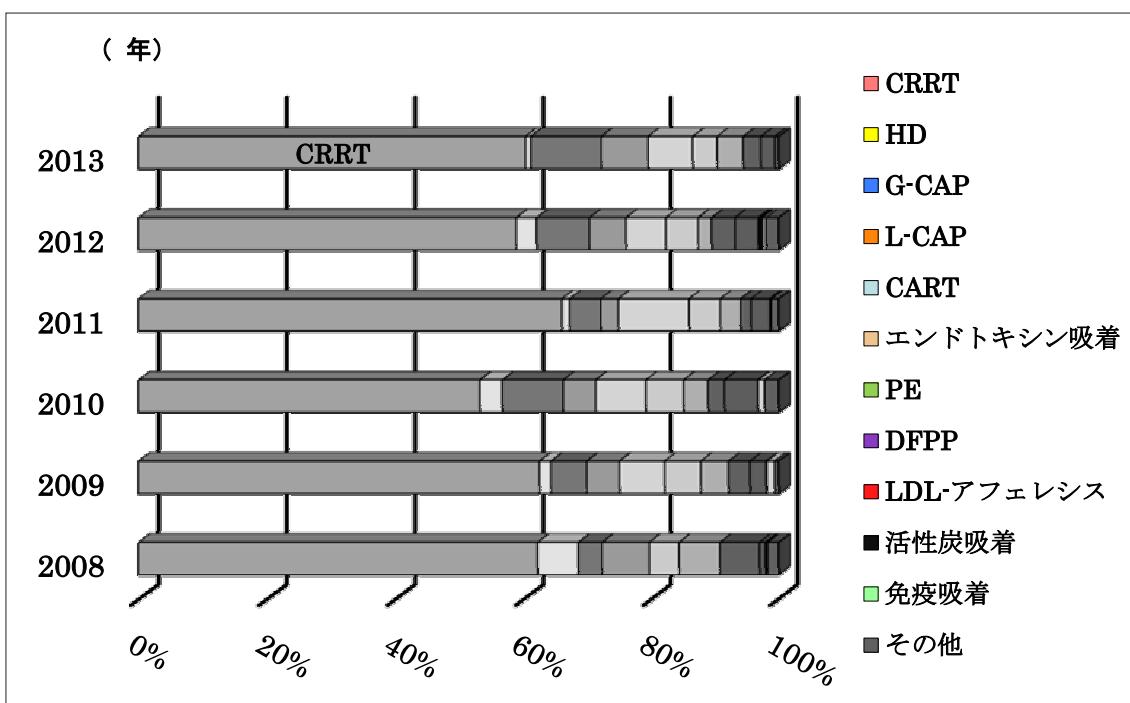


図5 血液浄化療法別施行割合

6. 血液浄化療法別施行割合 (CRRTを除く)

CRRT以外ではG-CAP、L-CAP等の白血球除去療法・腹水濾過濃縮再静注法エンドトキシン吸着が比較的多く施行されていた。

白血球除去療法に関してはL-CAPに比べG-CAPの方が多く施行されている傾向にあった。

腹水濾過濃縮再静注法は肝硬変や悪性腫瘍に対して多く施行されている傾向にあった。

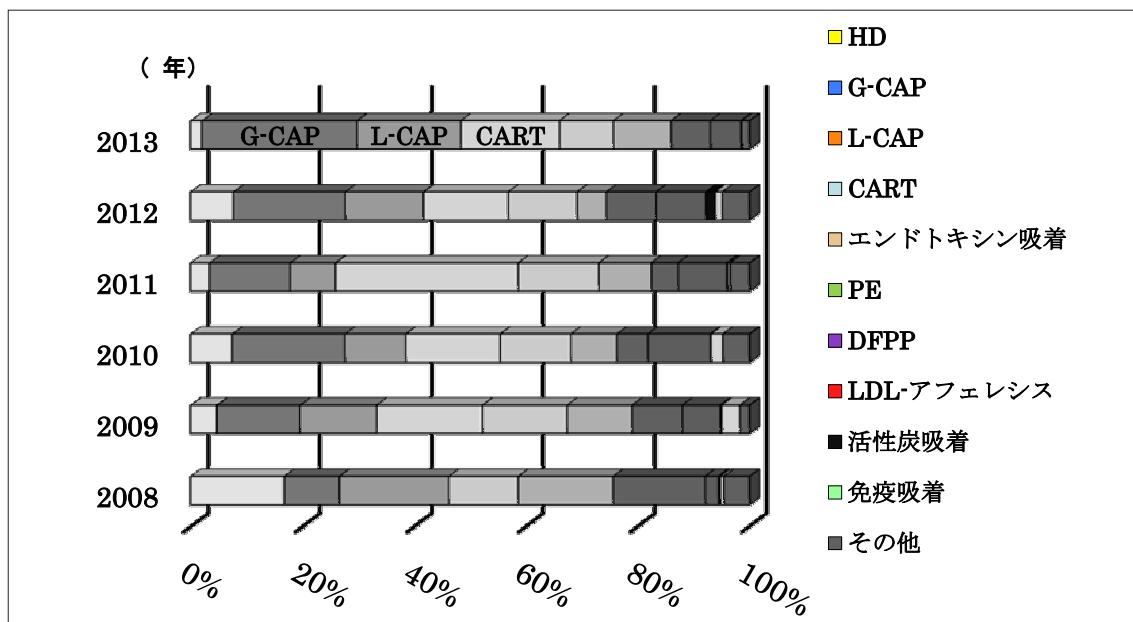


図6 CRRTを除く血液浄化療法別施行割合

7. 担当科

急性血液浄化療法を主に担当した診療科は、以前は泌尿器科や腎臓内科の占める割合が大きかつたが、近年では徐々に各診療科に分散してきている傾向が見られた。

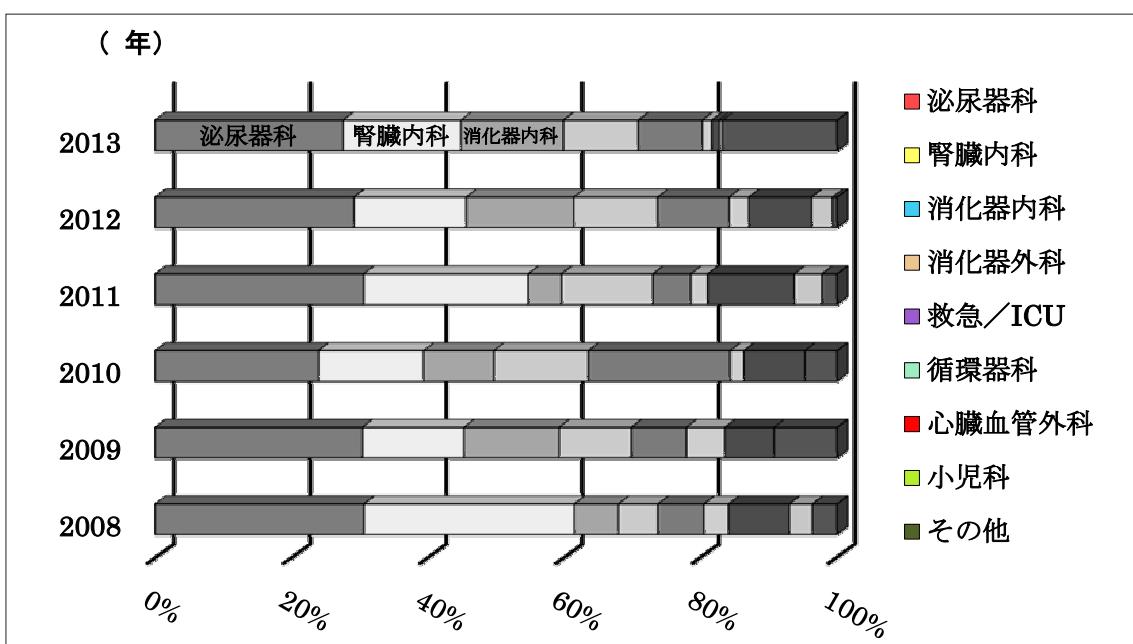


図7 担当科

＜考察＞

秋田県では毎年300人以上の患者に対し、2,000件前後の急性血液浄化療法が施行され、総施行件数は近年では増加傾向にあった。施行件数は、CRRTが最も多く毎年1,000件以上施行されている。これはCRRTの対象疾患の1つである急性・慢性腎不全が全体の約30%をしめ、CRRTは治療を数週間継続する症例も多いためと考えられた。

＜結語＞

公益社団法人秋田県臨床工学技士会では今後も継続して秋田県の血液浄化領域の治療の安全に尽力し、さらに発展に貢献していきたいと考える。